

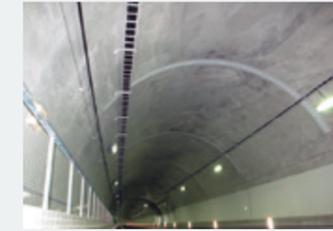
社会資本を良好な状態で次世代に引継ぐ

私たちは60年以上メンテナンス専門として培ってきた技術力を活かし、多様なインフラ構造物を補修・補強することで、持続可能な都市づくりへ貢献します。



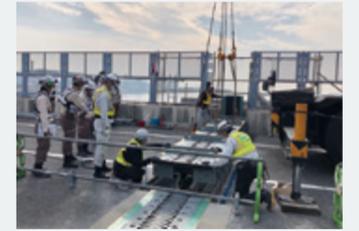
- 地震や災害に強くする
- コンクリートの劣化を防ぐ

■ 橋梁



- 天井や壁の剥がれを防ぐ
- 地下水の漏れを止める

■ トンネル



- 道路の「継ぎ目」を直す
- 騒音を防ぐ

■ 道路



■ 港湾施設

- 塩害から守る
- コンクリートの劣化を防ぐ



■ 鉄道

- 高架の傷みを直す
- 地震や災害に強くする



■ 農業用水路

- ひび割れを防ぐ
- 磨り減った壁の水漏れを防ぐ



■ 上下水道

- 腐食から守る



■ 建築

- 地震や災害に強くする



■ サイロ

- 壁面の劣化を直す



「ショーボンド」誕生まで

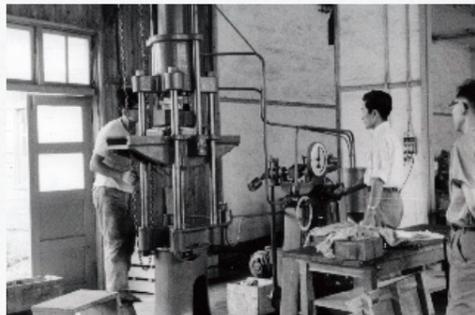


創業当時の上田

1958年6月4日、当社は「昭和工業株式会社」として、東京都世田谷区に設立登記されました。創業者・上田昭が31才の時でした。

設立当初は、硬質塩化ビニールの加工や配管工事が主たる事業内容でしたが、1959年に入り、八久和ダム建設現場排水路のひび割れ補修で塩ビ板を内張りした際にエポキシ樹脂を用いて速やかに補修できたことをヒントに、同年9月、エポキシ樹脂系高性能強力接着剤（現在の#101相当品）を開発。その後用途別の接着剤を開発し、「ショーボンド」（登録商標）と命名して、11月より生産を開始しました。

1960年には、本社を東京都千代田区に移し、「ショーボンド」の販売・施工を開始。土木建設業界に受け入れられやすくするために、全製品とも主剤と硬化剤の配合比率を整数比とし、建設現場で広く合成樹脂接着剤が導入されるようになりました。



(左)「ショーボンド」の製造風景
(右)東大生研におけるショーボンド製品の接着試験

「メンテナンス専業」のDNA

バブル景気に沸き多くの企業が事業の多角化を志向した1989年。創業31年目に入り、東京証券取引所市場第一部に昇格したこの年の全国営業会議で、当時社長の上田は、本業に専念し補修一筋で成長を目指す方針を社員に伝えます。

「当社はコンクリート建造物の総合メンテナンスということで、そのほかのことにあまり手を出さず、派手なことはせず、裏方企業として、地道に着実に我々の地盤を築いてゆく」

すでに顕在化し始めていた道路インフラの損傷から、補修工事の将来性を見据えた「メンテナンス専業」という当社グループのDNAは、今でも引き継がれています。



創業30周年当時の上田

1958年～

60周年記念 特設サイト
<https://www.sho-bond.co.jp/60th/>

1958年6月4日 「昭和工業株式会社」として創業。

1963年 社名を「株式会社ショーボンド」に改称し、高分子材料を土木・建築分野へ応用すべく新製品・新工法の開発を始める。

1964年 新潟地震により竣工間もない昭和大桥が落橋、床版に発生した多数のひび割れを補修する復旧工事に参加。

1964年 東京オリンピック

1965年 日本道路公団と共同で開発した道路橋伸縮装置「カットオフジョイント」の試験施工を実施、その後、高速道路建設の波に乗り全国各地で施工が始まる。

1965年 名神高速道路全線開通

1975年 株式会社ショーボンドを「ショーボンド建設株式会社」と「ショーボンド化学株式会社」に分離。

1977年 大宮市（現さいたま市）に中央技術研究所を新設移転し、化学技術と土木技術が融合した新製品・新工法を開発する「技術のショーボンド」の充実を図る。



1961年 吹雪の中、ダム現場に製品を運ぶ創業者 上田昭



1977年 当時の中央技術研究所



1981年 建設省建築研究所の日米共同大型耐震実験でビックス工法が採用に

製品・工法開発の歴史



1962年 #202によるコンクリート打継ぎ施工



1967年 東名高速道路名古屋インターでのカットオフジョイント新設工事



1968年 ショーボンドミニを開発・発売



1983年 DDビックス工法を開発

1982年～

- 1982年** スイスのストラブ社とストラブカップリング国産化に関する契約を締結。
- 1987年** 東京証券取引所第二部に上場。1989年には第一部へ昇格し「コンクリート構造物の総合メンテナンス企業」として更なる発展を期す。
- 1989年** 日経平均株価史上最高値(3万8,915円)
- 1995年** 阪神淡路大震災。阪神高速道路では多くの橋脚が被災したが、当社の鋼板巻き立て工法で耐震補強工事を施工した橋脚に被害はなく注目される。その後、全国で耐震補強工事が増加し、当社は大きく業績を伸ばした。
- 1995年** 阪神淡路大震災
- 1996年** 補修工学研究所が完成。技術開発や耐久性能などの評価設備が整備され、当社の工法・製品の信頼性が大きく向上。
- 2005年** 「品確法」施行により公共工事の入札で「総合評価方式」が採用される。確かな技術力と豊富な実績を有する当社にとって大きな「追い風」となる。



1982年 カップリング契約締結の様子



1991年 日本橋高架橋外装工事



1995年 震災で倒壊した阪神高速道路



1995年 震災直前に完成した橋脚補強箇所に被害は無かった



1996年 竣工した補修工学研究所

2008年～

- 2008年** 「ショーボンドホールディングス株式会社」を設立。
- 2011年** 東日本大震災。阪神淡路大震災以降に施工された耐震補強工の有効性が実証され、インフラ構造物の耐震補強工事がさらに加速。当社は、地方自治体の発注形式に対応すべく地域施工子会社(化工グループ)を全国12カ所に設置。
- 2011年** 東日本大震災
- 2012年** 管子トンネル天井板崩落事故
- 2013年** 道路法改正 インフラ長寿命化基本計画 ～社会資本メンテナンス元年～
- 2015年** 高速道路リニューアルプロジェクト
- 2016年** 熊本地震
- 2017年** 創業者であり会長である上田昭が逝去。
- 2018年** 国土強靱化基本計画 見直し
- 2019年** 三井物産株式会社と合弁会社「SHO-BOND & MITインフラメンテナンス株式会社」(SB&M)を設立、メンテナンス事業の海外展開を始める。
- 2020年** タイの複合企業サイアム・セメント・グループ(SCG)傘下のCPAC社との合弁会社「CPAC SB&M Lifetime Solution Co., Ltd.」を現地に設立。
- 2021年** 補修工学研究所の隣地に「つくば研修センター」を開設。



2011年 土木学会関西支部技術賞を受賞した神戸大橋の工事



2011年 東日本大震災で被災した東北新幹線橋脚の工事



2020年 タイでの試験施工

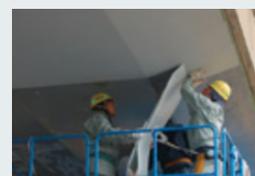
製品・工法開発の歴史



1983年 STジョイント



1997年 緩衝チェーン



2006年 RACシート工法



2006年 緩衝ベルト



2008年 せん断ストッパー



2011年 AIジョイント



2017年 クリアプロテクト工法



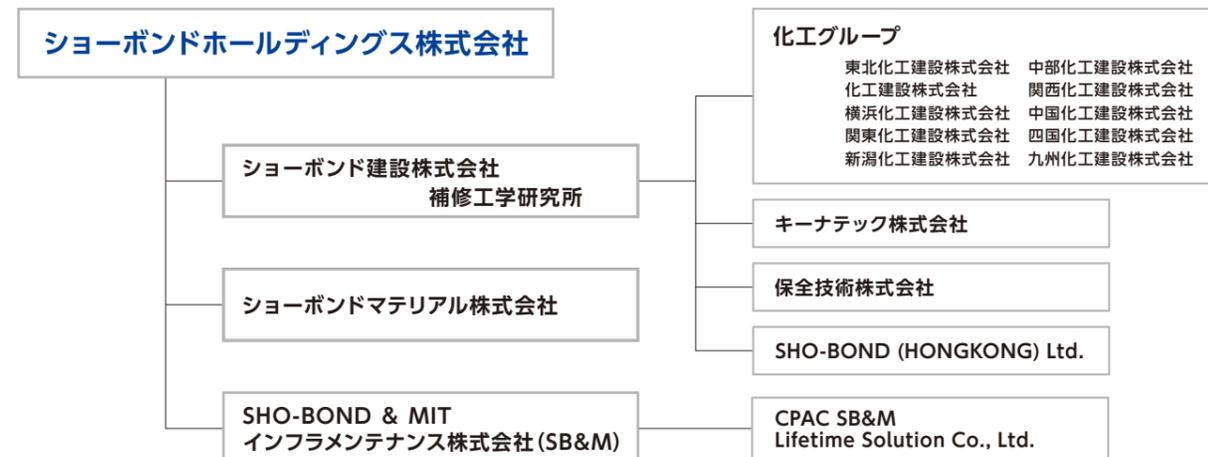
2020年 CPJ-L

総合メンテナンス体制

ショーボンドグループは、橋梁をはじめとする社会インフラの補修・補強を専門とする、「総合メンテナンス企業」です。建設会社としての設計・施工を軸に、材料・工法の研究開発、さらには開発された材料や工法の製造や販売まで、社会インフラのメンテナンスを幅広くサポートしています。国内随一かつ屈指の総合メンテナンス体制。これがショーボンドグループの特色であり、強みです。



グループ組織図



事業案内
<https://www.sho-bondhd.jp/business/>

○研究開発 時代が求める新工法・新材料の開発
 補修・補強に特化した最新鋭の研究機器を多数取り揃え、化学と土木を専門とする研究員が外部の研究機関とも連携しながら、これからの時代が求める新工法・新材料の開発に取り組んでいます。
 ショーボンド建設 補修工学研究所



○調査・診断・設計 正確な調査に基づく最適な提案
 構造物の多種多様な損傷という課題に対して、豊富な知識と最新の技術を組み合わせた調査・診断を行い、最適な設計・施工方法を提案しています。
 保全技術(株)



○施工 あらゆる工事に対応できる施工体制
 高難度の大型工事はショーボンド建設で対応し、中小型工事は各地に本社を構える化工グループが担当。規模の大小や元請下請を問わず、全国各地のメンテナンス工事を支えています。
 ショーボンド建設/化工グループ/キーナテック



○製造 自社工場と製造委託を活用した生産体制
 当社のルーツである樹脂系材料を自社工場で製造する一方、構造系工事材料は研究所で開発・設計し、製造はパートナー企業に委託(ファブレス)。効率的でアセットライトな生産体制を備えています。
 ショーボンドマテリアル



○販売 補修・補強に関わる多種多様な製品を販売
 製品販売と工事施工は事業の両輪です。有機系・無機系・構造系材料などの製品を取り揃え、グループ各社が幅広いお客様にアプローチし、販売チャネルを広げています。
 グループ各社



○海外事業 日本のメンテナンス技術を海外へ
 ショーボンドが培ってきたインフラメンテナンスの技術力と、三井物産が持つネットワークや事業開発力を掛け合わせて、各国が直面するインフラ老朽化という社会課題の解決に挑戦しています。
 SB&M



ショーボンドグループとは

経営戦略

事業戦略

サステナビリティ

コーポレート・ガバナンス

企業情報

「社会資本を良好な状態で次世代に引継ぐ」との使命感のもと、
メンテナンス業界のトップランナーとしての高度な技術開発力で、
豊かで安全な社会の実現に貢献する。

社会課題

- 加速化するインフラの老朽化
- 激甚化・頻発化する自然災害
- 脱炭素社会の実現
- 少子高齢化と労働人口減少
- 地政学リスクの高まりや国内外の経済状況の変化

インプット

財務資本

- 高い収益力による健全な財務基盤

製造資本

- 「総合メンテナンス」を支えるグループ総合力
- 補修・補強に特化した工法・材料

知的資本

- 補修工学研究所を中心とした技術開発力とナレッジの蓄積

人的資本

- 経験豊富で高いスキルを誇る技術者集団
- メンテナンス専門としての強みを持つ多能工

社会関係資本

- ステークホルダーとのエンゲージメント
- 強固な協力会社ネットワーク

自然資本

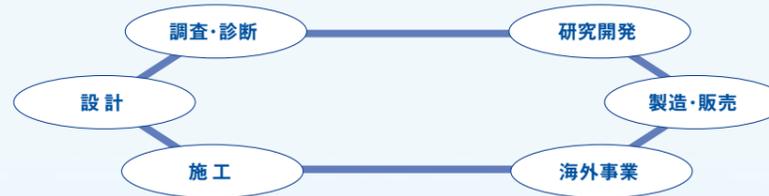
- 環境負荷を抑えたメンテナンス工事施工

ビジネスモデル

めざし続ける姿



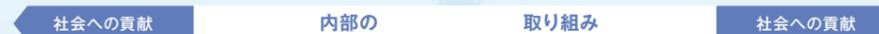
総合メンテナンス



ショーボンドらしさを極める



マテリアリティ



アウトカム

社会課題の解決

- 予防保全型インフラメンテナンスによる老朽化対策
- 「強さとしなやかさ」を備えた安全・安心な国土・地域・経済社会の構築
- 持続可能で暮らしやすい都市づくり
- 温室効果ガス排出量の抑制(環境負荷の低減)

経済価値の向上

- 売上高 875億円
 - 当期純利益 120億円
 - ROE 12%
 - 総還元性向 75%
- (中期経営計画(2022年6月期~2024年6月期))

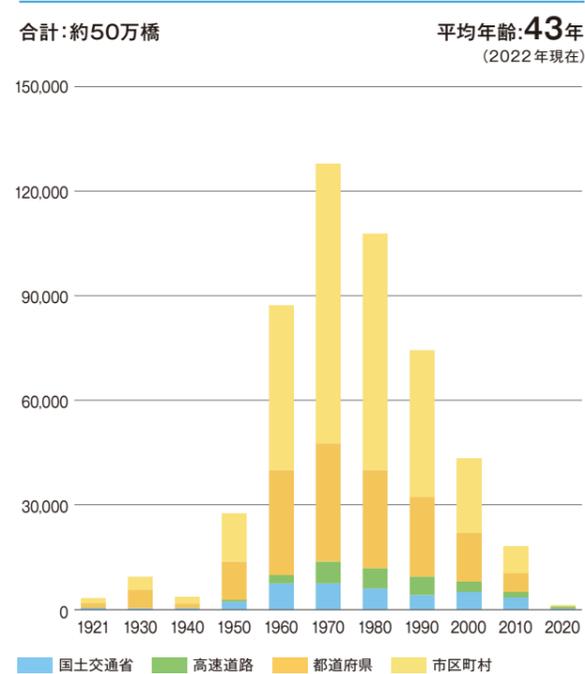
ミッション

社会資本を良好な状態で
次世代に引継ぐ

加速化するインフラの老朽化

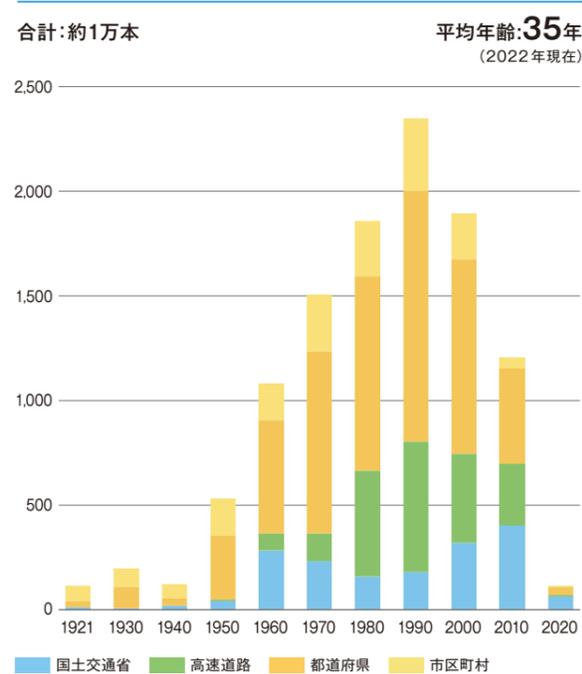
国内インフラの多くは高度経済成長期以降に整備されており、今後その老朽化が加速度的に進行することが見込まれています。この社会課題の解決のため、インフラを適切に維持管理・更新するための計画策定や、長寿命化対策などの対応が全国各地で進められています。

建設年代別「橋梁数」



※道路管理者別の管理施設数
※上記の他に、建設年不明の橋梁が約23万橋、トンネル約400本

建設年代別「トンネル数」



※国土交通省資料より当社作成

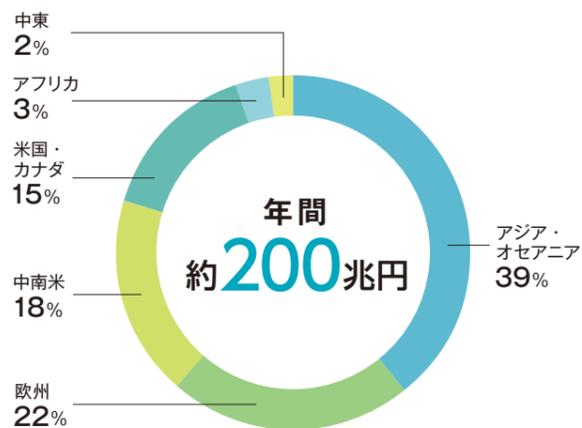
国内インフラ維持・更新費の推計

国土交通省	194.6兆円
鉄道各社	38.4兆円
農水省	29.3兆円
高速道路	19.4兆円

2018年～2048年 **282兆円**

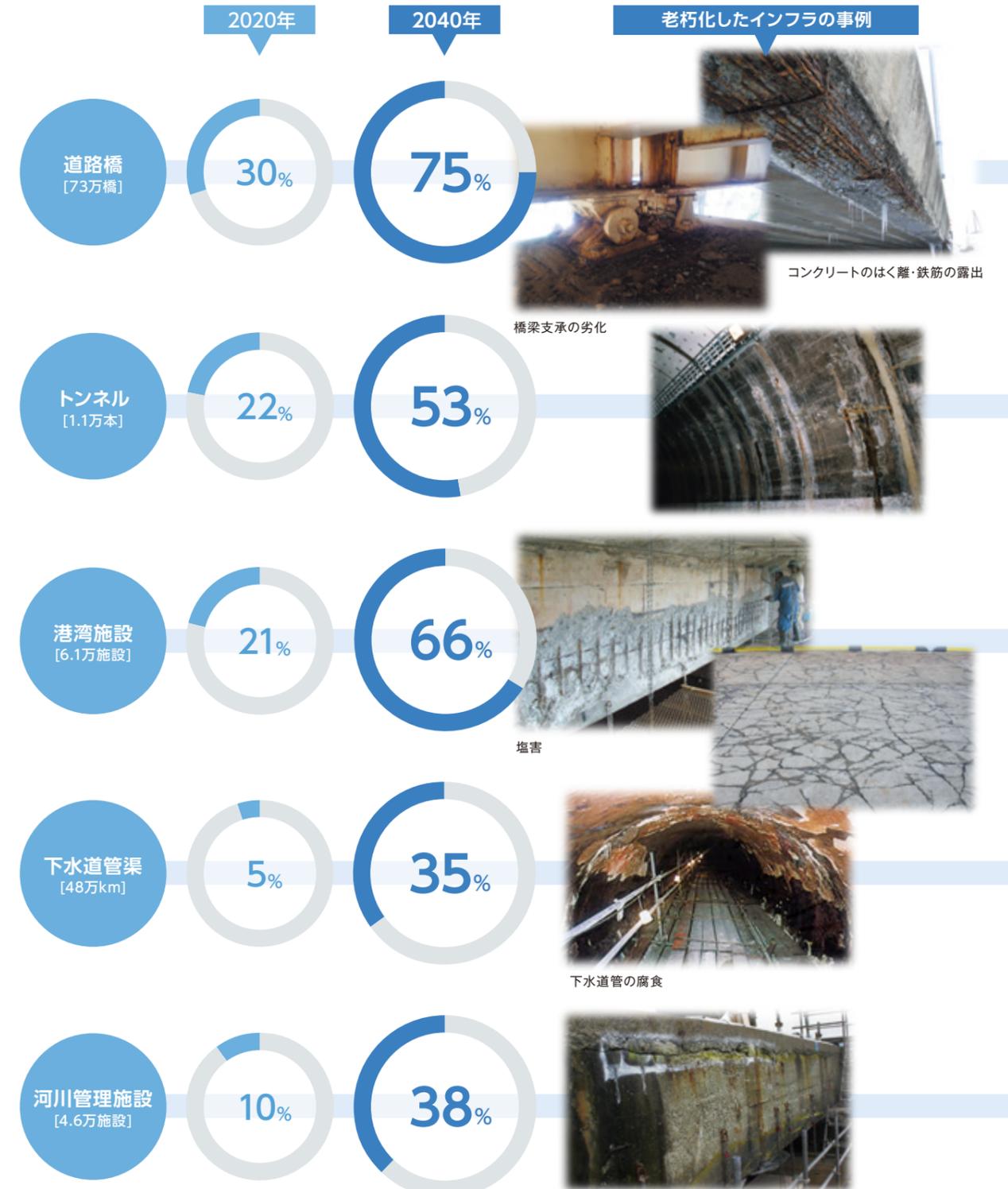
※2018、2019年度試算値より。各機関が所管するインフラの維持・更新に対し「予防保全型」での最大値を集計。「事後保全型」の場合、30年後の国土交通省の維持・更新年間費用は、約1.5倍になると推計されている。
(出所：国土交通省資料、新聞記事他)

海外インフラメンテナンス市場の推計



※国土交通省資料より当社作成

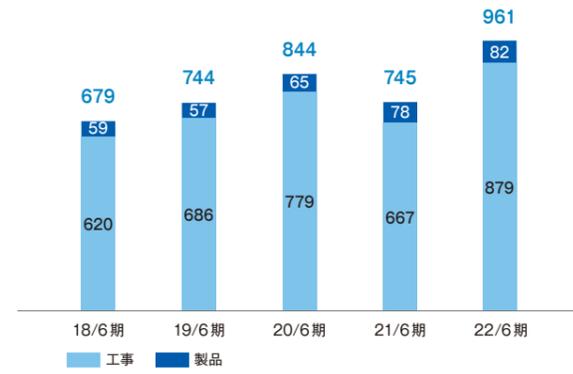
建設後50年以上経過するインフラ構造物の割合



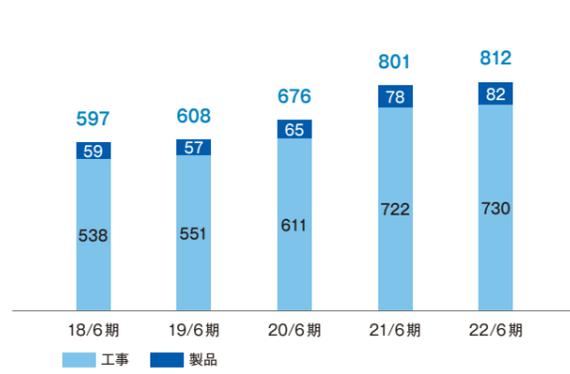
財務・非財務ハイライト

財務

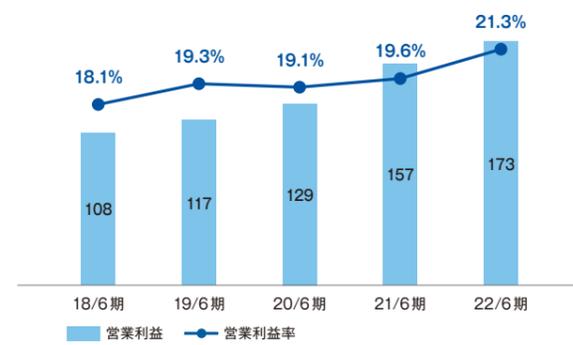
受注高(億円)



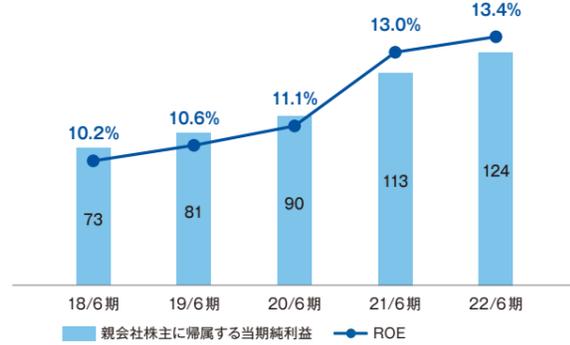
売上高(億円)



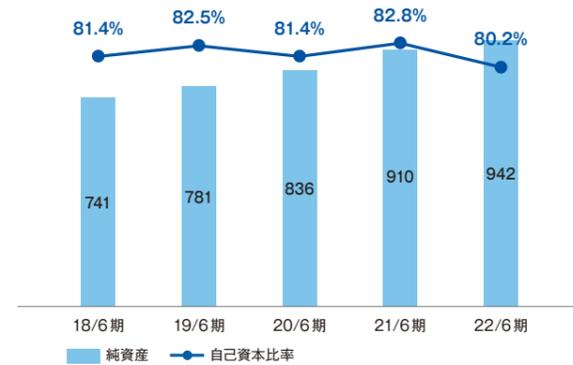
営業利益(億円)・営業利益率



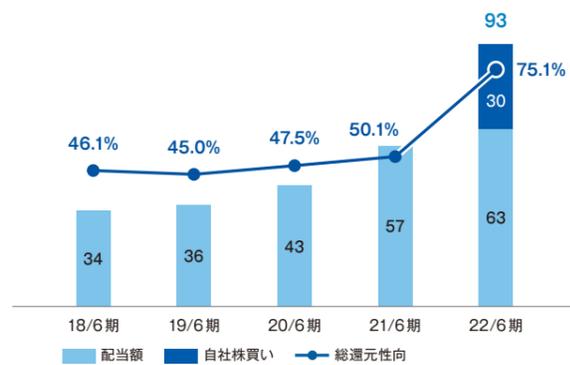
親会社株主に帰属する当期純利益(億円)・ROE



純資産(億円)・自己資本比率

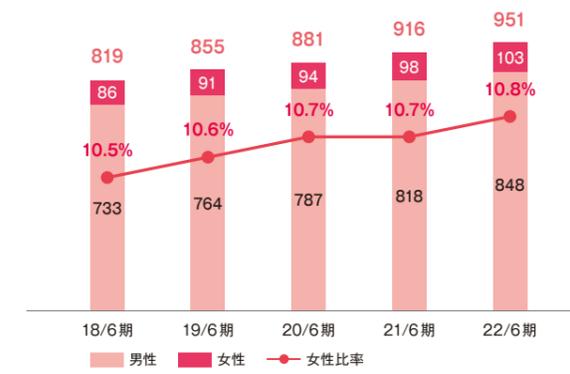


配当額(億円)・自社株買い(億円)・総還元性向

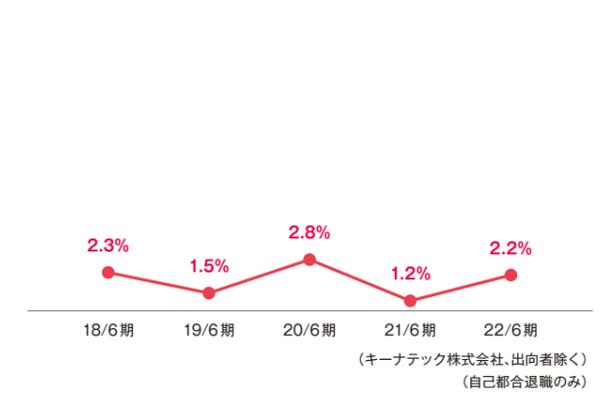


非財務

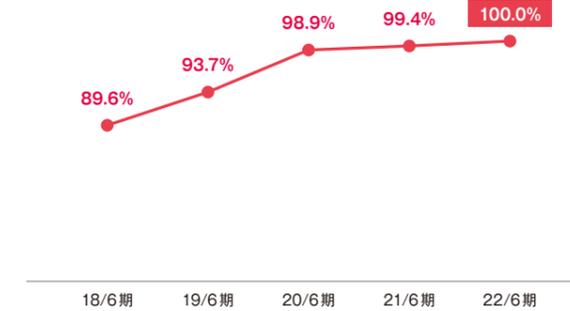
従業員数(人)



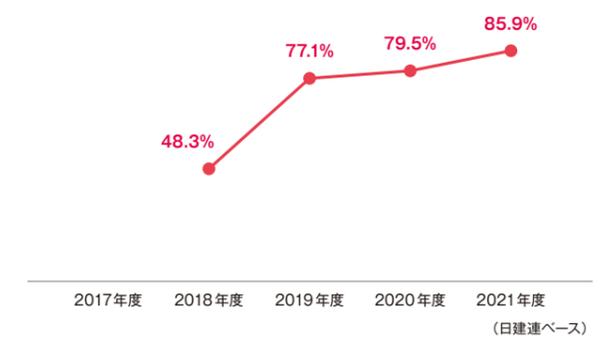
離職率



年間休日100日未満社員0名達成率



4週8閉所実施率



安全衛生度数率



安全衛生強度率

